

## 令和4年度 第1回名取市地域学校協働活動運営委員会概要記録

○日時	令和4年6月28日(火) 午前10時より
○場所	市教委 第4会議室
○出席者(7名)	齋藤勇介委員、橋浦ふさ江委員、佐々木健太郎委員、 伊藤宗男委員、小沢静子委員、高橋千春委員、洞口のり子委員
○欠席者(2名)	八森伸委員、半澤新一委員
○事務局出席者	教育委員会 教育長 瀧澤信雄 教育部長 菊池 博幸 生涯学習課 課長 佐藤 徹也 〃 課長補佐 佐藤 浩 〃 生涯学習・青少年係長 菊地 栄一 〃 〃 社会教育主事 小池 郁江
○傍聴人	なし

### 会 議 概 要

《委嘱状任命式》 進行：佐藤課長補佐、介添：小池郁江  
補欠委員1名の名前を読み上げ、瀧澤教育長より交付。

#### 1 開 会 進行：佐藤課長補佐

#### 2 あいさつ 瀧澤教育長

本日はお忙しい中、また暑い中、お集りをいただき、また、常日頃から地域学校協働活動をはじめ、教育行政全般にわたって、ご指導ご支援いただき、感謝申し上げます。昨年度より、15ある小中義務教育学校の全ての学校区に、地域学校協働活動の本部を設置して、活動をしていただいている。コロナの流行で、なかなか人が集まったり、学校に地域の方が訪れたりすることが難しい中ではあるが、それぞれの本部で工夫して様々な取り組みをしていただいている。それぞれの本部に感謝をしている。

地域学校協働活動のいくつか今後の取り組みについて、教育委員会としても考えていることがある。一つ目は、公民館も積極的に、地域学校協働活動に関わることを今年度一つの目標としている。公民館も当然地域のコミュニティの中心である。地域学校協働活動に関わっていくということが一つの目標である。

二つ目は、公民館活動の中で行ってきた、広域連携を協働本部でもすすめていきたい。去年、みどり台中学区の公民館で、ウォーキングのイベントを行ったり、平塚先生や、大川小で子供さんを亡くされている方をお呼びしての防災講演会などの取り組みをおこなったりしている。

今年度は、地域学校協働活動においても、地域で連携した取り組みなども行っていきたい。それから、地域学校協働活動のねらい「地域全体で子供達の学びや成長を支える学校を核とした地域づくりを進める、地域と学校が連携していく」ということを実現するために、学校はお客さんであってはならない。してもらおうというばかりの立場ではなく、学校も積極的に地域学校協働に関わるといったところも話をしていく。ただ、学校は当然決められた指導要領に沿って、計画を作って、年間教育活動を行っていくので、どうしても地域の方々のご要望にこたえるのが難しいようなケースもある。きちんと地域の方と話し合っ、地域の子供達と一緒に育てていこうというスタンスをもちつつ、連携しながら取り組んでいくように、校長会・教頭会等で、話をしていきたい。

昨日、二中学区・第二中学校・増田西小・高館小の3つの本部、そして公民館、学校の校長などが集まって、地域学校協働活動に関する市長懇談会が行われた。山田市長が地域で、この活動に取り組んでいる方々の生の声を聞きたいということで、一時間ぐらい話し合いが行われした。いろいろ忌憚のない率直な現状や思いが本部の方々から聞かれました。来週以降他の中学校校区でも、増田・関上・みどり台それから一中学区でも、これから行われる予定になっている。今日、昨年度今年度の事業について、事務局から報告させていただきますので、委員の皆様から今後に向けて、ご助言・ご指導いただければと思う。どうぞよろしくお願い致します。

## 2 あいさつ 伊藤委員長

全市的に、地域協働活動とか同じ歩みで進むようにとのことで、一人一人の委員も自分の勉強にもなる。生涯学習の一環として捉えている。委員の方も、地域に合った活動推進によりしくご指導お願いしたい。今日は、年度の初めで、1年間を見通した話がなされると思う。いろいろご指導宜しくお願いしたい。

## 3 自己紹介 14:00

運営委員、教育委員会事務局の自己紹介。

## 会議成立の確認 16:20

名取市地域学校協働活動運営委員会設置要綱第6条第2項により、委員過半数の出席を確認し、会議成立を宣言した。

## 会議公開の確認

名取市審議会等の会議の公開に関する要綱第2条の規定により、公開の対象となる旨告げる。傍聴席を設けていたが、本日の傍聴者はなし。会議録を作成の後、皆様にご確認いただく。非公開の議事は予定していないが、非開示情報が含まれる内容となった場合、会議に諮り決定していくことを告げた。

会議録は非開示情報を除き、一定の期間公表。市政情報コーナーにおいて、翌年度の4月1日から3年間。ホームページでは、掲載から1年間。

#### 4 報告事項 17:50

名取市地域学校協働活動運営委員会設置要綱第6条第1項により、伊藤委員長が議長となり進行する。

#### 伊藤委員長

事前に各委員に提示されている、レジュメ・資料を宜しくお願いします。レジュメの4番、まず令和3年度の名取市地域学校協働活動の実践事例について、事務局から報告を求めます。

#### 事務局（小池社会教育主事） 18:45

別紙資料①「令和3年度名取市地域学校協働活動実践事例」をもとに、主な学校支援活動・地域活動について報告した。地域学校協働本部が小中学校区に設置された。前年度と同様新型コロナウイルス感染症の影響があり、学校の中に入る活動や直接子供達と関わる活動に制限があった中だが、子供達を小グループに分けて、活動場所を分散させたり、屋外での活動を検討したり、それぞれの本部でできることを工夫しながらやっていた様子があった。田植え、稲刈りなどの農作業体験や校内の掲示物を児童作成したり、開催時期を工夫しての読み聞かせをしたりすることなどは比較的多くの学校で取り組んでいた。また、中学校の仕事博覧会では複数の教室を利用し、ブースをつくることで、生徒が希望する職業の話聞くことができ、将来について考えるきっかけになった。

「地域活動」としては、地域団体と連携した学校周辺の美化活動、農業体験、花時計の苗植え、防火・防犯・防災の呼びかけを行う「子ども放課後見まわり隊」、PTAと連携した地域の防犯パトロール、公民館サークル・地域の方の作品を学校の一面に展示するなどを行った。

#### 伊藤委員長

昨年度の活動について、委員の皆様から質問はございますか。昨年を見ますと、家庭科のお手伝いとか各学校で、ミシンとかが出てきたのですが、それにあたって、急に去年出てきたことを事務局、どう解釈するか。

#### 事務局（小池社会教育主事）

関係がより細やかになってきた。学校の中で必要とされていること、学校の先生が困っていることを地域の方にお声がけしやすくなってきたのではないかと思っている。ミシンの操作活動だと、壊れた、動かない、糸掛けがむずかしいなどは担任一人ではなかなか厳しいところがある。地域の中で得意な方がたくさんいらっしゃるということが、伝わっての取り組みなのではないかと思っている。

#### 伊藤委員長

学校の声が地域に伝わって行って、助け合う活動になっていったということだが、一つ一つ活動を地域学校協働の広報・公民館だよりで伝え、去年一年間で広がった。今度の広報7月号

も地域学校協働事業、入っていますよね。そういう意味で、広がっていると思うのですが、委員の皆さん、自分の地域を見て、この地域学校の存在、周知度合いはいかがか。

### 橋浦委員

活動の記録の実践事例を読んでも、ものすごく広がっていると思う。閑上もそうだし、高館はいろんなグループの方がたくさんバウンドテニスまで支援している。館腰のはなまちかぐらはとても有名で、そして今度本部長には疋田さんである。地域に活動が根ざし始めている。閑上では、来月7月に初めて子ども食堂を行う。閑上公民館を使って30食を目標に無料で18歳以下。大人は300円。30人とは言っても、カレーだから、50人分くらいできるのではないかな。ただ玉ねぎが高いから経費的にどうなのかと心配する話が聞こえてきたりする。閑上も一人親さんが多いので、そういう取り組みをしたいと思っていたら、地区の中で、そういう話もでてきた。この活動が定着してきていると感じている。

### 伊藤委員長

市や公民館、各本部でいろいろ努力しているようだ。本部のメンバー一人一人を見ると、いくつかの団体のまとめ役が多い。齋藤さんはPTA会長ですからね、どうですか。

### 齋藤委員

地域の方への学校協働活動に関しては、少しずつ理解が進んでいると思っている。ただ、それぞれのPTAの活動や地域のボランティア活動は、小学校と中学校の協働本部で、今までの役割と新たにこういった活動が加わった。これにより、一般の会員達がどの活動がどれでというのが煩雑になっていると実感している。活動が周知してきたからこそその連携周知と組織図的な理解を各団体でこれからより強化して伝えていくことが大切。

### 伊藤委員長

一人一役ではなく、婦人会や民生委員さん、区長さんも委員になっているので、団体の方に口コミで広がる可能性があるのではないかな。

### 委員

下増田は公民館が中心になってやっているが、古い住民と新しくできた団地の住民とがいる。活動に積極的に参加している人は、新住民でも年齢のいった方が多く、古い住民だとずっと先輩。名前が入ったものが学校から文書で来るが、特に1年生のお母さんお父さんはよく理解ができないところがある。協働でやっているという趣旨だが、「文書が来たが子供を行かせても大丈夫か」という質問があちこちのお母さんから聞かれる。昔から活動している人達で、市をあげてやっているものだから、積極的に参加させてねと説明すると、理解して申込をしてくれる。いまいち親御さん達に浸透していない部分がある。特に新しい人達に。

## 伊藤委員長

しかし、コロナ禍で、地域活動事業については、広がりがあったと解釈している。コロナ禍での工夫があったと思っている。

## 4 協議事項

### 伊藤委員長

1 番の令和4年度の事業概要について。

### 事務局（小池社会教育主事）

昨年度に引き続き、市内15協働本部が活動を行っている。地域学校協働活動は、市としても力を入れている活動と考えている。バックアップ体制を整えていきたいと考えていて、特に昨年度の課題としてあげられていた、公民館との連携については、公民館は各本部に参画し運営・活動を支援することとしている。具体的には、本部の参与や役員として参画し、総会や打ち合わせにすでに出席している。そのことにより、地域や学校との思いを共有したり、実際の活動と一緒に取組んだり、できるようになってきていると感じている。また、学校やコーディネーターの負担が大きいという声があがっていた業務委託契約の書類の作成についても公民館が補助や相談にのるなど対応をしている。また、地域学校協働本部を公民館のページに本部の紹介をするページを設置したり、公民館だよりにボランティアを募集する記事を掲載したりするなど、コーディネーターと相談して、意見を聞きながら、充実した活動になるよう工夫した。情報交換をする中で、連携がとりやすくなってきているという声が聞こえてきている。

続いて、5ページ(6)。本年度も協働本部は市と委託契約を結んでいて、30万円上限の委託料を活用して活動を進めている。内訳は、コーディネーター謝金に20万円、活動費に10万円ということで、お願いしている。ただし、相互台地区については、公民館がコーディネート機能を担っていて、活動費の10万円での契約である。また、昨年度より委託料が4万円少なくなっている。これは、国や県からの補助金が少なくなったため。

### 伊藤委員長

今年度の実施要項についてのご意見・ご質問があれば、お願いしたい。実施にあたっての配慮関係。先ほども教育長から話があった公民館のあり方について、何かあるか。

### 委員

予算のところだが、減ってしまったというところは、せっかく軌道に乗ってきたところなので、次年度に向けてもなんとかがんばってほしい。ボランティア数120人というところがあったが、社協のボランティア保険に一人300円で加入すると、それだけで3万なにがしのお金がなくなる。活動に回していくところがなくなる。これからますますコロナが沈静化していき、いろんな活動ができるようになってくると、ボランティアの人数も増えてくると思うので、次年度以降、頑張って増やしてもらおうとよりよい活動ができると思う。

## 委員

10万円というのは、具体的にはボランティア保険も含まれているのか。

## 事務局（小池社会教育主事）

そうです。

## 齋藤委員

今、ボランティア保険の話があったので。昨日、みどり台中学校区の協働本部の会があり、ちょうどボランティア保険の話が出た。予算はできれば減額ないように検討いただきたいが、みどり台中学区で、交通パトロールなど地域の方々をお願いしているような協働本部の活動として、公民館を中心にお願いしている。そちらだと、視点は違うが不特定多数や隙間時間でやってもらうので、人数の把握が難しいので、保険に関して、協働本部の中に地域の自治会が加入しているので、自治会の活動とリンクして、自治会の活動保険にこちらの方の活動を枠として入れてもらい、各自治会に入っているボランティア保険の方を、自治会と協力しながら保険を適用していこうという話があったので、各協働本部のところ、課題が出たとき、そういうふうな考え方もあるのではないかと思った。

## 伊藤委員長

事業の概要についてはよろしいですか。次に、中身について引き続き説明をお願いします。

## 事務局（小池社会教育主事）

要項P.6の資料③をもとに、学校区の状況計画について説明した。6/17日現在、13校の業務提携手続きが終了し、残り2校も手続きを進めている。

協働本部が設立される前から地域と学校が協働していた活動はもちろんだが、学校の年間指導計画、学校行事について、学校とコーディネーターとが定期的に意見を交換しながらできることを取り組んでいる。定期的に学校の担当職員とコーディネーターが集まり、情報交換を実施している協働本部がある。また、中学校区ごとに公民館を交えたコーディネーターの情報交換会を実施し、互いの活動をヒントにしながら、新たな試みを考えている地域もある。協働本部が設置されてから、数年がたっている学校では協働本部自体の関係や、協働本部と学校、地域との関係に信頼が生まれ、地域、学校双方向で要望や希望が言いやすくなっている雰囲気がある。今年度は資料の表に書かれている取り組みを予定しているが、様々な状況によっては残念ながら実現できなかつたり、反対に新しい取り組みが出てきたりすることも予想される。

## 伊藤委員長 42：00

P6から各学校ごとに本年度の計画が示されている。委員の皆さんも自分のところの学区を中心に見ていただいて、伺いたいことを出してほしい。

活動の数・種類が去年・一昨年と比べると増えている。わたしのところの増田西は伝統的に枳とり舞？の学習をしております、総合の時間や体育の時間に20時間くらい教育課程の中に入っていてやっている。毎回指導する時、学校の前に集まって、元気よく教室や体育館に入っていくのを公民館で見ていると、楽しそうに入っていく。きちんと活動していることに感心している。授業の中で、増田西の活動として、紙芝居をやっている。ここ3～4年くらい3年生に教えている。学校に行くのが楽しみ。学校だよりに載ると嬉しい。今年度の各学校の計画で何かないか。

### 事務局（小池社会教育主事）

中学校区のまとまりで何か子供達とできないかということで、取り組みを考えていた。今のところ、ゆりが丘中学校区全体だと、スポーツゴミ拾いの取り組みということで、学校にも声掛けが言っている。目的地を決めてゴミを拾いながら何キロゴミを集めたかを競い合うことをやっていきたい。一中学区では、樽水ダム関係の防災の授業を段ボールベッドの設置をしながらやっていきたい。愛島では、ICT関係をやりたい。

### 委員

ゴミ拾いの話が出ていたようだが、閑上も公民館が手伝いをして、月に1回子供達が集まって、朝7時、日曜日、町を清掃しようということでやっている。最近は閑上地区でない市内のさまざまところから通っているお子さんのご父兄さんも一緒に子供と参加してくれて、少しでも今通っている閑上を探索しようという感じである。そういうことも公民館の方がいろいろと手配をしてくれて、ゴミ拾いによって、他の地区から来ている親同士もつながりを持てるし、お話もできるので、参加者が少しずつ増えて定着してきている。閑上小中特有の全市から来ているところの連携がそういうささやかなことからスタートして、うまく運ばせようとする公民館の方達のお力添えもすごいと感じている。

### 伊藤委員長

活動計画を立てる際、今、SDGsのことを頭に入れて、それを自分の生涯学習の一環として、取り入れて欲しい。活動しているところで、春にSDGsの研修会をした。NHKで放送した小学生でもわかる説明があった。この活動は、目指す17項目の中のどれにつながるのかなというのというのを子供達に考えさせる。自分達が活動しているところの位置づけをちゃんとしていたら、子供達もわかってくるのではないか。質の高い教育を受けさせることが17のうちの4番目にある。それは小学生が2018年の時、地球上の5千400万人が小学校に行けない。日本の人口の半分も行けない小学生がいるのだということを指導者がわかっているならば、やり方がまた変わってくるのではないか。各学校で地域に根差した子どもの質を高める、あるいはそれを支える時に、指導者がどれにつながるのかということ意識したのとしらないのでは、声のかけ方も違ってきて、子供のこれから違ってくると思う。今年度活動する時に、17の項目のうちのどれにつながるかということ子供が意識し、それが将来の仕事に繋がる可能性がある。今私達がやっている仕事は子どもの原点を作ってあげる感じがするので、意識した

行動をとる必要がある。SDGsにどうつながっているのかを理解してほしいと思う。公民館にパンフレットあげたところ、みんなで回して見たとのこと。やはり、こういうものにつながることはこれからの活動で大事なことと思う。

### 事務局（小池社会教育主事）

5月18日の水曜日に研修会を行った。対象は、地域コーディネーター・公民館職員・学校の先生を対象にし、36名が参加。内容は、東京のボランティア活動総合推進センターから大坪直子先生をお呼びして、地域における関係機関との連携協働活動について、講和をいただいた後、ワークショップを行った。ワークショップで出た良かった点や効果、課題や困っていることをまとめた。

プラスのこと、良かった点・効果・お願いなどとして、子供が地域の人や良さを知るきっかけになっていることや、活動しているボランティア同士などさまざまなつながりが生まれていること、それから、活動することが喜びややりがいを生んでいること、学校を学校だけでなく地域と一緒に作り上げている感じがするというプラスの意見が聞かれた。

一方で、マイナスのこととして、課題や難しいと感じていることだと思うが、若いお母さん方など新しいボランティアメンバーを獲得することが難しいと感じている。地域学校協働本部が設立される前から、活動している団体との連携が難しい。コーディネーターになったばかりで誰に声をかけていいかわからない、という遠慮の気持ちが課題にあげられている。学校が多忙で、なかなか担当の先生を含めた話をするのが難しいというところがある。

ただ、プラスのこととして、あげられていることとマイナスのこととしてあげられていることがかぶっているというか相反しているものもあることから、地域によって、活動状況が違っていることが伺える。本部が立ち上がって、一年未満のところもあるので、引き続き、コーディネーター同士、学校とコーディネーターの連携の強化などサポートしていく。

### 佐々木委員

昨日、齋藤委員と一緒に、大学が連携団体に入っているのので、会に参加してきた。コロナの影響がだんだん落ち着いてきて、地域の皆さんが今年こそやっていくぞというような非常に前向きな気持ちで取り組んでいる様子が感じられてすごくいいなという気持ちで帰ってきた。それが活動の内容にも反映されている。特に大事ななと思ったのが、昨年度の取り組みだと、不二が丘でやっているような休日の体験活動や話題に出ていた子ども食堂の取り組みなど。まずは学校での活動を支援するということから、スタートするというので、そこが実際増えてきて、すごくいい傾向。その次にあるのが、学校を越えて、地域で関わりあえる場づくりにいくような気がしていて、ここで目指すべきところというのが、親子というところが一つある。学校の活動はお子さんへの支援。次はその親世代をどう巻き込んでいくのかがすごく大事になってくる。子育て世代の参加が難しい。私自身も子育てをしていて、実際参加するのが難しい。ただ、知ってもらふ必要はある。実際に展開していく時に、休日に親子で地域の活動に参加していく機会が増えていくとそこに来た保護者が、「こんなことをやっているのか」と、お子さんとのコミュニケーションもなかなかとれていないのかなという気もしている。そういった意味



でも、意義があること。そこから、親同士のつながりや、先輩保護者さんに子育てについて聞くなど、次は、親の支援までいくとあれだが、そういったところに次は行けるといいのかと思った。そういった時に、公民館というのが、今年重点項目だと話していたが、そこの連携がすごく大事になってくると思った。そこをうまく事務局でリードしていけると、さらに広がりのある取り組みになっていくし、地域のつながり・子育て世代の参画にも少しずつ近づいていくのではないかと感じた。

### 伊藤委員長

子どもの声もかなり入ってきているが、コーディネーター研修から入ってきた子供の声を聞いてどうお感じになりますか。

### 小澤委員

今回はじめて参加し、勉強不足のところもあり、活動の様子をお聞きしながら、個人的には、コーディネーターさんになった方とお話する機会が1,2年前にあり、その時は始まったばかりで、どんなことをやっていいのかわからないという話も聞く機会があった。資料を見ていて、すごく取り組みが広がっていることを感じていて、コーディネーターさん自身もほかの地域の方と情報交換する機会ができたとお聞きし、コーディネーターさんにそういう機会が出てきてよかったと個人的には思った。子供達の姿としては、子供達は課題もいろいろ多い時代だが、よかったことということで、子供に関することがあげられていて、地域の方に関わっていただいている、子供達の育ちに必要な関りをたくさんもっていただいていると感じている。

### 伊藤委員長

コーディネーターさん自身も子供達と接して、やりがいをもっている。そういう意味で健康のことも含めて、活動するのはいいことではないかと思う。

### 高橋委員

他の委員と同じ意見だが、感想としては、何年か委員をしてきて、最初は少ないというところから、令和4年度から一気に活動が広がっているなというのを感じている。佐々木委員からお話があったが、今は学校の授業内とかの活動だと思うが、将来的には放課後や休日に発展していければ、より地域と子供達、親の連携も深まっていくと思った。今年は、公民館との連携だが、個人的に放課後というところ、私の子供達は、児童センターに行っていたので、部は違うが児童センターとの連携も今後あってもいいのかなと思っている。夜7時まで子供達がいるので、そこと学校とコーディネーターさん達がいれば、より充実した生活ができるのではないかなと思っている。最初は、公民館というところなので、公民館の充実を図ってからでもいいのではないかと思った。健康面というところで、委員長から話があったが、その辺はこれから。健康でないと子供達も学力の向上が進んでいかないと思うので、健康に配慮した項目もあるといいと思う。食育的なものは今、農業体験をしており、食から学んで健康になっていこう。そ

こから勉強頑張ろうというところも考えていただけるといいと個人的には思っている。

### 伊藤委員長

コーディネーター研修会では、各自分のコーディネーターとしてのこと、子供を見る姿、プラスなことが書いてある。自分の目の前で、コーディネーターの方を見ていると、大変だな、本当にご苦労さんだなどと思う。自分が率先してやる。例えば、夏の雑草刈りなんかは、自分で機械を持ってきてやっている。もちろん計画を立てて。うちの団体に、コーディネーターがいる。愛島のコーディネーター、そういう人の話を聞いていても、大変だと思う。しかし、ここに書いてある通り、生きがいを見つけたとコーディネーターが言っている。子供の笑顔、遊ぶ姿に、心を動かされたとのこと。PTA 会長は、コーディネーター研修会の子供の姿の変移をどうとらえているか。

### 齋藤委員

子供の姿というか、地域の方々と関われる機会がこういった活動を通して増えてきている。なかなか地域の方々と関わる機会が近年減ってきているので、顔の見える関係性の構築というところが、すごく大切じゃないかと。それがすごくプラスに働いているところに、嬉しく思っ

### 伊藤委員長

手引きにはコーディネーターの資質など書いてあるが、コーディネーターの方もいろいろ考えてやっているのだと思う。下増田の方でもよくやっている。

### 洞口委員

もともと、コーディネーターが公民館館長さんだった方なので、地域の人ともつながりがあったし、学校と本当に近い場所にあったので、隣が児童館ということもあり、子供達が常に公民館を経由して、移動して歩くという感じ。とても地域と子供達とが良く繋がれている方。

### 伊藤委員長

コーディネーターが一人のところもありますよね。複数のメンバーだといいいことも困ることもあるのではないかと。

### 事務局（小池社会教育主事）

一人のところは、負担があり、頭が下がる思いでした。複数のところは、連携をとりながら、連絡担当・会計担当など役割分担をしながらやっている感じは見受けられた。コーディネーターもコーディネーターだけではなくて、公民館にもご相談に行かれていて、新しく筆耕のボランティアを探す時に、ご自分で探されたがなかなか難しいという時に、公民館が見かねて紹介いただいたとか、そういう一人じゃできないことも、コーディネーター仲間や公民館のネットワークが広がってきて、活動なさっているという気がしている。

## 伊藤委員長

やっぱりそういうところにも、教育長が言った公民館の役割が出てきますね。コーディネーターの研修会についての皆さんの考えを聞いていますが、皆さんから何か意見はありますか。わたしのメンバーにコーディネーターがいるが、どんな研修会をしたのかは聞かなかったが、行きたいと思った。私は、二中と西小のコーディネーターの姿を見てお話ししているんですが、本当に大変だしがんばっていると思う。やはりわかってあげなくちゃならないかなと思う。さらにどんなことをしていきたいのかを知りたい。研修会では、講師の先生を連れてきたのか。

## 事務局（小池社会教育主事）

東京の方に全国体験活動ボランティア活動推進センターがあり、政策局のそばにあるセンターで、そちらから講師の先生を派遣して頂いた。去年も来ていただく予定だったが、コロナの関係でオンラインでご講和いただいた。本来であれば、同じ先生に続けて来ていただくのは不可能なようですが、名取市の場合は地域学校の取り組みの方を継続的に、段階を経て、発展させながらやっているということで、今年度もお引き受けいただき、来ていただいた。中身は、初めてのコーディネーター経験の方もいらっしゃったので、地域学校協働活動ってどんなものかなというさわりのところからどうして必要なのだろうというところ。それから地域とつながる緩やかなネットワークを構築していくことが地域づくりに繋がっていくんだというご講和をいただいて、先進地域の取り組みをご紹介いただいた。その後、ワークショップでは、自分達はどんな子供を育てたいのかなという話しあいや思いを共有しあってから、やってみての苦労とか大変なこと喜びを共有した。参加した方の話を聞くと、「活動する中で不安に思ったり、戸惑っていることを他の人と共有できたというところがすごく有意義だった」との意見をいただいた。「わたしはこういう子供・地域にしたいんだ。」という話を活発になさっていて、時間がもっと欲しかったという意見をいただいた。

## 伊藤委員長

繋げるとか繋がるということで、先生の考えることを教えて欲しい。

## 佐々木委員

今の話に関連して、コーディネーターの研修会のアンケートを見て、活動が個々の地域で進んできたところで、課題もより地域ごとに具体的になってきているし、内容もかなり違うものになってきているのではないかという気がする。まず、課題を整理するといった時に、平らに並べると地域によって違うので、プラスマイナス色々出てくるというのは当然で、地域ごとに特徴があるのかといった、より具体的な形で整理していった方が見る方としては把握しやすいかなというところと、研修会に関してお話を聞いたが、課題の共有となると、実際どうしたらいいかというアイデアが求められている気がする。それをメインに据えた会も必要なのではないか。例えば、グループワークをするのであれば、同じような課題を持った地域同士で、意

図的にグルーピングして、お互いにアイデアを出せるようにしていく。非常に活動が具体的にようになってきて、課題も具体的に見えているので、解決の糸口を求めているのかなと感じていた。やはり、コーディネーターの相談役みたいなもの、事務局なんだとは思うが、その辺りのサポート体制をしっかり作っていくというところが大事かなと聞いていた。研修会の持ち方とコーディネーターのサポートと2点。

### 伊藤委員長

コーディネーター研修会について何か意見はないか。

### 佐々木委員

具体的に、私自身が取り組んでいる領域に近いので、地域の実状のところ、発達障害に関するところが記載されているが、具体的にどんな内容だったのか教えて欲しい。

### 事務局（小池社会教育主事）

ワークショップの中で、付箋に書かれていたことでして、実際にそばで聞いていたわけではないのですが、私の方で取り組みを地域に出て見させていただくと、発達障害がどうこうというわけではなくて、思いが強くて地域の方の声が強かったりする部分もあるので、発達障害の子達によっては驚くところもあるのかと思う。

### 瀧澤教育長

当たっているのかどうかかわからないが、発達障害については、学校の先生方も理解がまだ十分ではないという認識をもっている。現象だけ見ると、集団の中で、じっと話を聞いてもらえない。その影に発達障害があるということがわかれば、ちょっとした工夫をすれば、その子は集中して聞けるようにもなる。その子が怠けているとか集中力がないとかそういう見方でみてしまうと子供は行き場がなくなってしまうと思う。これは学校の先生方までで十分だと思っていて、去年のコーディネーターの方やボランティアの方にしてみれば、子供と関わっているときに、障害のために、一見問題行動に見えるようなところで、安易に注意してしまったりすると、その子にとってはなぜ注意されているのかわからないということも起こり得る。ただ、関わってくれる方に、発達障害の研修をしてもらおうというのもまた難しいところ。発達障害やマイノリティーも数は少ないが、市内の中学生や小学生に、性別は女性でもスカートを履きたくないという子もいるし、その辺りの多様性の理解はこれに限らず教育界全体で考えていかなくてはいけない課題と思う。

### 橋浦委員

今の発達障害の子供が閉上にもいて、朝見送りをする時に対象になるお子さんがいるが、いたずらはするけど、注意はしない。その子の自主性をある程度認めたくて、どんどん成長してきて、1年生から今5年生くらいになってきて、とてもいい子になった。そういう子供さんもいるし、発達障害の子供さんは以前に比べたら多いと思うけど、そういうお子さんが今一般

の社会でどんどん生きていける時代にもなってきているので、少しずつテレビでも放映されているが、私達一般の人が少しずつ理解しないと、どんなに研修を受けても、研修でどうなるということではなくて、自然とみんなが理解を広げていくような活動になるしかないと思っている。

### 小澤委員

発達障害の子供達のことは、コーディネーターだけの問題ではなく、学校やコーディネーター、地域の方達、児童センターも同じ、子供に関わる大人達として、連携していくことが必要なかと思う。

### 伊藤委員長

それでは、P10 について、事務局から説明をお願いしたい。

### 事務局（小池社会教育主事）

学校の方では、関係が密になってきて、先生方の顔がわかるようになってきたという話が聞かれた。ただ、担当の先生が変わると、誰と連絡をとっていいのか、とりづらい、という話もあり、これから関係が続いていけば、担当の先生以外の先生達にも、活動が広まって行って、誰とでも話ができるようになっていくのではないかと考えている。あと、カリキュラムや指導計画の話もあったが、その辺りの調整についても、今後学校には決まった指導要領があつてということ、コーディネーターさんや地域の人にもご理解いただいて、お互いやりやすい活動が広がっていくのではないかと考えている。

### 伊藤委員長

この研修会については、よろしいか。では、これからの流れについて。

### 事務局（小池社会教育主事）

今年度は、先ほど話が出ていたコーディネーター研修会を名取市としても11月にもう一度実施する予定でいる。協働本部ごとや地域ごとで思いを共有できる場という研修ができればいいと考えている。特に、運営委員会を11月と2月に予定している。10月に各地域の今年度の状況をヒアリングして11月にその様子を伝えられたらと思っている。2月には、次年度の指導計画について、意見を伺いたい。

### 伊藤委員長

各学校区のヒアリング大変ですが、まとめも大変と思うが、今年度の地域学校協働活動についてご意見・ご指導があれば、ここでお預かりする。最後に一人一言ずつ。

### 齋藤委員

全体を通して見て、コロナ禍の中で、なかなかできなかつたところから、苦戦しながらの活動だが、年々活動の充実が図って、活動自体ブラッシュアップできていると感じている。そういった部分では、学校の活動の補助が増えてきたところから、地域の中で協働本部独自の取り組みも充実させていきながら、本来の形により近づいていければと思っている。活動が充実している分、関わるコーディネーター含めボランティア含め関わる方々の子供達への配慮・関わり方も今後出てくるのかなと思った。発達障害の話が出ていたが、そのほかジェンダーの問題も重要で、中学校の制服もそれに配慮した形で、制服の変更がされてきている中で、子供達の方が理解が進んでいて、大人の私たちの方が先入観で「スカートではないの？」とか何気なく言った一言が傷つけてしまったり、実はNGな言葉だったりということもあるのではないかと思います、関わる中での子供達への不適切な発言も各本部内の方で共有しながら、子供達に関わる基盤を築いていければいいと思っている。

### 橋浦委員

今年の活動の中で、増田西の「枅取舞」とか館腰で「すずめ踊り」とか閑上も「閑上太陽踊り」を子供達と先輩方と練習会をしたりしている。長年培ってきたその地区その地区の伝統的な祭だったり踊りだったり、年上の先輩方、若い世代、今の子供達、若いお母さん達とかどこかでつながっていきたりして、伝統的な各地区特有のものが少し復活して入ってきているということも望ましいと思っている。

### 佐々木委員

先ほど、発達障害関連の話は、私のイメージとしては、最初にお話しした親をどう巻き込んでいくかといった辺りの文脈をイメージしていて、子育てで悩んだりしている方がいると思うが、そういった方達が地域の中に出てきて、ゆくゆくは公民館とかそういうところが駆け込み寺ではないが、安心できるような場になっていくことによって、地域全体として多様性を受け入れられるようなものになったりとか、ゆくゆくはお子さんが健やかに育っていくようなことに繋がるのかなといったところで、親子で参加できるという次のステージに差し掛かってきているのではないかと考えていた。あとは、私自身の話になるが、みどり台中学区の方に参加させてもらい、いつも全体をみさせてもらう立場なので、学生を通じて、私自身も地域の活動に参加し、現場の雰囲気も今年は感じたい。

### 小沢委員

参加させていただいて、私自身この活動についてこれからもっと勉強していきたい。児童センターに勤務しているということで、児童センターでも何かしらこういう活動に関わっていけることがあるのかどうか考えていきたいと感じた。

### 高橋委員

委員の皆様方がまとめていただいているので、会議に出る時、資料を事前にいただくが、すごく楽しみにしている一人。その中には、コーディネーターの大変さや学校側や生涯学習課、

公民館とかすごく大変かと思うが、子供達の育ちをわたしも一緒に見れるのがすごくいいなと思っているので、ぜひ令和4年度も楽しみにしている。

#### 洞口委員

どんどん活発になってきたということもあるが、どんどんと活発になってきたからこそ、学校と地域が相互にパートナーとして、連携協働してというところがあるので、教育活動とかみ合わないとか微妙にみんな違うかなと思っているところがあると思うが、それをうまくお互いに話し合えるくらい親密になってもらえると、地域からもこうしてほしい、学校からもこうしてほしいというのを遠慮なく話せるような関係に発展してなっていってもらえればもっといいものになるのではないかと思った。

#### 伊藤委員長

わたしもいろいろな形で学校とかかわりを持っている。子供を守りたいと14,5年やってきて、ずっと区長をやってきて、地域や悩みやあるいは相談、いろいろなことをやって、多くの人とつきあった。今回もこのような形で、その地区のいいところをとらえて、子供達に伝承させて教えたりすることに関わるのは、私自身新しいものを見つけるのに役立つ。昨日公民館で、二中と高館と増田西の広域事業、樽水ダム、7月12日にあるので、申し込んだ。何かの機会に、顔を出しているということは、自分のためにもなるのだなと思っている。今日もここで皆さんの考えを聞いて、何か私は得たような気がする。活発な意見をありがとうございました。

(議事一切を終了。)

#### 4 閉会

以上